

時間をかけてnoteを書いているのに

構成と言葉を丁寧に選んでいる / 反応がほぼない

通知・シェアが発生せず、読まれた実感がない状態

原因を文章力に求めている
書くこと自体が怖くなり始めている

「今のズレ」を正視する

文章力不足という「思い込み」

本当の理由

読まれる前提が未設計

- 読まれない理由を内側に回収
- 才能や資格の問題と認識
- 届く準備が整っていない状態

実際は書き方だけが原因ではない
配置と導線の欠如

「見つけてもらえる」を捨てる

- × 書けば読まれるという前提
- × 内容が良ければ届くという認識
- × noteは拡散される媒体という誤認
- × タイトル・冒頭軽視の状態

結果として「未開封」の文章

見つけてもらえる前提の発信を卒業する

読了までのルートを描く

読了までの導線設計

誰に読ませるかの特定 / 感情のゴール設定
タイトルで足を止める設計 / 冒頭二行で対象明示

見出しと流れの「接続」

感情までのルート設計を完了させる

「伝達の実感」を獲得する

読まれる確率の上昇
共感コメントの発生

- 読者との接点が明確化
- 書く怖さの減少
- 狙った相手に届く状態

発信の手応えが発生する

未決定のまま書き始めない

1. 書く前に一人を決める
2. 読後の感情を一つ決める
3. タイトルを読者の言葉に寄せる
4. 冒頭二行で対象と感情を明示
5. 最後に次の行動を一つ置く

投稿前に「四点」を必ず確認
書く前の設計に一分かける

感覚投稿の抑制装置

書く前に戻るチェック基準
読まれない原因特定用の設計図

- 毎回の投稿前確認ツール
- 継続的に使う設計図
- 発信停止を防ぐ役割

書く恐怖を軽減する基盤

再現性ある発信へ。

- そのまま感覚で書き続ける選択
- 設計してから書き始める選択
- 既存noteの見直しを行う
- 外部視点で原因を特定する

判断基準は「再現性」

一人で悩み続けるのを、今日で終わらせる